

生徒による授業評価に対する  
各教科、各学年における集計結果の分析と改善点等のまとめについて  
平成27年度

教科名・学年	集計結果の分析と改善点等のまとめ
国語	生徒の意欲や関心を持ち続けられる授業の展開や単元の精査を、科会で話し合う場を設ける。現在の課題の量は適切と考えてはいるが、生徒の力と実態を把握し、適切な課題帳・教材の選択と適切な量を心がけたい。
地歴・公民	教科内での相互の授業見学を実施し意見交換をする。教材研究をさらに深めて、生徒が意欲的に取り組める授業をする。
数学	教科会で進度や教材について意見交換をし、授業の改善に取り組む。生徒の授業への取り組みと課題提出への積極性を養う。
理科	生徒ごとに、学習意欲の差が大きい。実験・実習をできる限り実施し、授業、あるいは自然科学そのものへの積極的な関心を持たせたい。
保健体育	生徒自ら考え行動ができ、より良い人間関係を構築できるように手助けをする。また、自分自身の健康について考えることができ、健康を保持増進するための行動が取れるように授業を進めていく。
芸術	教材研究の徹底や課題の与え方のさらなる工夫により、授業者の熱意が伝わる授業展開をめざす。
英語	検定や外部模試を利用しながら、長期目標としての生徒につけたい力を教科内で明確にする。それに向けて教科内で進度や教材について意見交換をし、授業の改善に取り組む。また、引き続き課題や小テストを頻繁に課すことによりモチベーションを維持させる。やればできる事を多く体感させ、授業や家庭学習への取り組みに対する積極性を養う。
家庭	学習意欲に差がある生徒でも興味・関心を持てるような教材を研究したい。
情報	より実際に役に立つ内容の実習を行うと共に、生徒が関心を持ち自ら積極的に取り組める教材を研究する。時代に即した内容にする必要があると考える。
1 学年	生徒同士、教師と生徒の人間関係の確立、挨拶を通じて感謝の気持ちや、思いやりも心を育てる。学習習慣の確立、締め切り前の課題提出等、学習に対する意識の向上を目指す。
2 学年	家庭学習が不足しており、さらに家庭学習の習慣化をはかるためにも、今後も適切な量の課題は必要と考えております。
3 学年	受験は最後まで諦めず、頑張らせることが大切で、諦めなかった生徒は結果を出している。また、大学合格者等にセンター試験を課しているが、補習への参加も義務づける必要があるのではないか。また、補習指導に当たっては担当者もきちんと傾向と対策を踏まえて指導しないと生徒が中々ついてこない。